

1 晩婚化の傾向／シングルズの増加——なぜ結婚をためらうのか？

報告者 小島 宏 (人口問題研究所)

討論者 服部 範子 (兵庫教育大学)

2 子どもをめぐる病理——家族の教育機能は低下しているか？

報告者 小川 捷之 (横浜国立大学)

討論者 庄司 洋子 (日本社会事業大学)

3 主婦の就労の増加——性別役割分業は変わるか？

報告者 岡村 清子 (東京都老人総合研究所)

討論者 山手 茂 (東洋大学)

4 離婚率の低下

報告者 湯沢 雍彦 (お茶の水女子大学)

討論者 野々山 久也 (甲南大学)

5 過疎地の高齢者世帯の現状——超高齢化社会の縮図

報告者 染谷 俣子 (鹿児島経済大学)

討論者 清水 新二 (精神保健研究所)

この日はさらに夕食後、総会が開かれた後、4組の世話人の下でテーマ別の「フリー・トーキング」のセッションが行われ、深夜まで活発な議論が続いた。

最終日の午前には「今、家族に何が起きているか——家族社会学はどう答えるか——」というテーマの下に総括討論が行われた。司会者は袖井孝子と本村汎 (大阪市立大学) の両氏で、討論者は青井和夫、上子武次 (甲南女子大学)、田村喜代 (同朋大学)、布施晶子 (札幌学院大学)、森岡清美の各氏であった。各討論者の発言の後、一般参加者も交えた討論が行われ、三日間にわたるセミナーの幕が閉じられた。ここでは家族への人口学的アプローチの重要性や社会学関係大学院での人口学教育の必要性を指摘する声もあった。なお、次回のセミナーは篠崎正美 (聖マリア短大) 実行委員長の下で1990年7月下旬に北九州で開かれる予定である。

(小島 宏記)

人口問題協議会・家族計画国際協力財団主催 シンポジウム「人口・女性・開発」を考える

人口問題協議会・家族計画国際協力財団主催、国連人口基金後援シンポジウム「人口・女性・開発を考える」が1989年7月14日(金)13時50分から17時30分まで東京・内幸町日本プレスセンターホールにて開催された。

まず元外務大臣大来佐武郎氏 (人口問題協議会長) の挨拶ののち、人口問題研究所長 河野稠果の「女性と人口問題」と題する基調講演があり、ついで映画ののち、荒木重雄 (NHKチーフディレクター) の司会のもと、西川潤 (早稲田大学教授)、樋口恵子 (東京家政大学教授)、松井やより (朝日新聞社編集委員) 各氏がパネリストとして参加したパネル・ディスカッション「人口・女性・開発を考える」が行われた。

(河野稠果記)

毎日新聞社・総合研究開発機構・国連人口基金主催 国際シンポジウム「人類生存への道」

毎日新聞社・総合研究開発機構・国連人口基金主催の国際シンポジウム「人類生存への道」副題「人口・環境・開発の調和をめざして」が1989年8月3日と4日東京・内幸町の日本プレスセンターで開催された。これは互いに密接な関係をもつ人口・環境・開発の問題を同時に視野に入れ、多面的に将来の人類のあり方を探った公開